

(2) 就学前教育推進事業について

文化生涯学習課

1 事業の目的

幼児期から児童期にかけては、育ちと学びの基礎力を養う大切な時期であり、互いの教育を見通し、連続性・一貫性の教育を行う必要があります。幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るために、関係各課及び公立・私立の別なく市内の幼児教育施設と小学校と連携しながら就学前教育を推進するものです。

2 事業の進捗状況

- 就学前教育連絡調整会議の開催(7月・11月)
 - ・市内7課(障害福祉課, こども福祉課, 健康増進課, 教育総務課, 学務課, 文化生涯学習課, 指導課)の連携を図るための情報の共有と意見の交換の場
- 保幼小連携に向けての実態調査(6月～8月)
 - ・小学校17校, 幼児教育施設38園へアンケート形式で実施
- 幼児教育施設及び小学校訪問(6月～12月)
 - ・保幼小連携にかかる認識(現状と課題)に関する聞き取り
 - ・今後の保幼小連携に関する土浦市の方向性を示すとともに協力を依頼
- 保幼小連携の柱
 - ・「生活する力」「学ぶ力」「かかわる力」の3つの力を柱として推進

※国・県においては、幼児期に育ってほしい姿として、国が10の姿・県が7の姿を明示していますが、本市においては「3つの力」が育成されることによって国や県の求める姿が表出されるものと考えています。

3 令和2年度以降の事業展開

- 「土浦市保幼小連携協議会」の開催
- 「就学前教育連絡調整会議」の開催
- 「保幼小連携ワーキングチーム」による接続カリキュラムの作成
- 幼児教育と小学校教育接続推進のための研修(指導課との連携)
 - ・幼児教育施設と小学校間の相互の教育・保育の時間及び授業の参観
 - ・円滑な接続に向けての研修会の実施
- 定期的な幼児教育施設, 小学校への訪問

4 期待される成果

幼児教育施設と小学校との連携を深め、集団生活に必要な基本的な生活習慣や社会性を養う教育を行うことにより、子ども達の自主性・自立性・規範意識が生まれ、幼児教育から小学校教育への円滑な接続が可能になります。

また、保幼小連携が充実することにより、近年問題視されている「小一プロブレム」の解消にもつながるものと考えます。